

第4回市民病院跡地利用のあり方懇話会（概要）

日 時

平成26年2月28日（金）19時～20時30分

場 所

商工観光センター 4F 展示交流室

委 員

（出席）8名

宗本 順三	学識経験者（京都美術工芸大学教授、京都大学名誉教授）
毛谷村 英治	学識経験者（立教大学観光学部教授、京都大学工学博士）
藤原 隆一	舞鶴自治連・区長連協議会
廣瀬 久哲	舞鶴商工会議所
増山 寛一	舞鶴老人クラブ連合会
石橋 恵美	まいづるネットワークの会
大槻 賢孝	市民公募
丹山 剛福	市民公募

（欠席）1名

西村 直紘	舞鶴青年会議所	（敬称略）
-------	---------	-------

懇話会次第

1. 開会
2. 議事
 - ①第3回懇話会のまとめ
 - ②市民病院跡地利用に関する提言について
 - ③今後のスケジュールについて
3. 閉会

（懇話会要旨）

前回（第3回）あり方懇話会の協議内容等について再確認を行ったのち、これまでの議論、市民アンケートの結果などを踏まえて事務局が作成した提言書（素案）を基にして、委員の意見交換を行い、あり方懇話会としての最終的な「提言書」を取りまとめた。

今後、「提言書」の最終調整を行い、後日、あり方懇話会から市長へ「提言書」の報告を行う。

◆議事内容

①第3回懇話会のまとめ

前回の第3回懇話会の内容について事務局から報告し、再確認を行った。

第3回懇話会の協議内容等の整理

昨年11月に実施した「市民アンケート」の結果について事務局から報告。
そして、あり方懇話会として「市民病院跡地利用に関する提言書」を取りまとめるため、これまでの懇話会における議論、「市民アンケート」の結果などを踏まえ、委員の皆様にご意見を交換していただいた結果、提言書の方向性は以下のとおりとなった。

◎跡地活用の方向性は「健康増進と多世代交流」

◎まちづくりの方向性を確立し、その中で跡地活用の位置づけを定める

事務局において「提言書の素案」を作成し、第4回あり方懇話会において、最終的に提言書を取りまとめる。

②市民病院跡地利用に関する提言について

事務局より、以下の提言書（素案）を提示し、内容の説明を行った。

提言内容（素案）

■まちづくりとの関わり

東地区の中心に位置する現市民病院用地の活用は、まち全体の活性化に寄与するものであり、広く市民に利益還元できる跡地利用が求められる。まちづくりの方向性や、周辺地域や施設との連携を視野に入れ、まち全体の活性化を目指した活用を目指すべきである。

■実現すべき「まちの方向性」

全国的に少子高齢化・人口減少を迎える中、本市においても人口減少と高齢化を迎え、要介護者の増加や、医療費、介護費などが増加している。

少子高齢化・人口減少社会において、住み慣れた地域で、健康で生き生きと暮らせることは、全ての市民の願いである。市民の健康を維持することは、個人の生活を豊かにするだけでなく、社会的負担を大幅に減らし、それ自体が社会貢献と言えるため、将来に向けて「健康なまち・舞鶴」を目指していくことが望まれる。

また、高齢化・核家族化が進む中、将来の地域のあり方を考えるうえで、高齢者と若い世代が連帯感を深め、希薄化する地域の絆を再生していくことや、高齢者の知識や経験を伝承し活かしていくことが重要であるため、多世代交流や地域間交流の活性化を積極的に進めることが望まれる。

■跡地利用の基本的な考え方

◎「まちづくりの方向性」の中で、市民病院用地利用の位置づけを定め、将来の舞鶴市にとって必要な機能の整備について検討すること。

◎本市の課題である「老朽化する公共施設の集約化・再配置」に供する用地としての活用を検討すること。

◎市民病院の病棟など既存施設については、導入する機能、改修費用、利便性などを考慮しながら、利活用可能な施設は活用すること。

◎自治体負担の抑制、効率的・効果的で良質なサービス提供の観点から「民間活力の導入」を検討すること。

■導入・整備が求められる機能

◎市民の健康増進や、世代・障害の有無を超えた多様な交流・賑わいの拠点

■事業手法のあり方

◎民間活力の導入を検討すること。

◎公民の連携によるサービス水準の向上

◎原則、土地等は市が所有し、必要に応じて貸付等を検討すること。

付帯意見

◆高齢者だけでなく、子どもや若者、家族など、多世代が利用できるものにする。

◆複合的な機能を持つ施設として、一分野だけでなく、複数の分野に寄与する機能の整備を検討すること。

◆環境を配慮して、緑地や自然エネルギーなどを積極的に取り入れること。

◆当面の間、市民病院の南棟及び東棟を勤労者福祉センター及びシルバー人材センターの移転先として検討を進めるほか、懇話会での議論や市民アンケートでも意見のあった文庫山学園について、現在のニーズに合った形で市民病院跡地へ機能の移転を検討すること。

◆不要な施設は除去し、維持管理にかかる行政負担を減らすこと。

◆既存病院施設は、機能改良や高機能化を図り、市民の求めるニーズ、サービス水準に対応する活用を行うこと。

◆不要な箱物の整備や過大な設備投資など、これからの舞鶴市を担う子ども達の世代に、大きな負担を残さないこと。

③意見交換

◆地元の意見である「賑わいのある場所にして欲しい」ということを提言書に網羅されているのはありがたい。

◆浜地区から赤れんがパーク、臨海部の一体的な拠点となるように、交通アクセス、駐車場の整備を行い、観光も合わせて市全体を活性化させるよう取り組んで欲しい。

◆商店街の活性化させる基盤となる施設を造って欲しい。

◆世代間の交流もできるような健康増進施設（温泉など）を民間活力を導入して整備してほしい。

◆提言書を市長に報告して終わりではなく、プロジェクトチームを作り、今後も行政と市民が一緒になって検討を重ねていきたい。

◇跡地を雇用促進と商店街の活性化に活用して欲しい。

◇温泉など親子で楽しめる施設や、観光客もターゲットとした娯楽やお土産の販売なども含めて整備して欲しい。

- ◇提言書の内容が漠然としすぎではないか。具体的な名称が出ているのは、文庫山学園、シルバー人材センター、勤労者福祉センターだけである。懇話会として望むものをはっきり載せてはどうか。
- ◇付帯意見にある、文庫山学園、シルバー人材センター、勤労者福祉センターだけが優先され、他の意見が通らなくなってしまうのではないか。後から出た意見であるが、商店街との関わりと雇用促進について、加えてほしい。
- ◆商店街は「まちの顔」であり、活性化したい。市民病院跡地を商店街と連携とれるような活用ができるよう提言書に加えてほしい。
- 座長** 商店街と市民病院跡地との関係については、懇話会であまり議論されなかったが、提言の「まちづくりとの関わり」の中で、「周辺地域や施設との連携」について包括的な意見を盛り込んでいるため、その付帯意見として、少し付け加える方向で文章を修正させていただく。
- ◇今の世代だけで考えるのではなく、今の子どもが大人になったときにも様々な場面で使える施設にして欲しい。
- ◇世代間交流に加えて、地域間交流を深める場ともして欲しい。
- ◇今の子ども達は自分で何か作ったり、考えたりする頭を使った遊びが苦手。昔ながらの頭を使った遊びは親世代も知らないことが多く教えることができない。子どもと親、そして高齢者が交流して学べる場としてほしい。
- ◇最初は、市や民間に交流のためのイベントを開いてもらう必要があると思う。
- ◆跡地活用の計画段階から、専門家や子供（絵をかいてもらうなど）を交えたワークショップを開いてはどうか。
- ◆先ほど、商店街の話もあったが、人が車で来るだけではなく、歩いて商店街を通ってくるような街全体で遊べる仕掛けが必要。
- ◇個人的には、様々な意見や要望はあるが、提言の内容と付帯意見の内容は十分納得できる。
- ◇今後は、インフラを含めた持続可能な整備を、柔軟に行うことが必要と思う。
- ◆以前の懇話会でも述べたとおり、文庫山学園の運営を良くするため、日ごろからアンケート調査を行うなど、利用者の声を聞いている。その中で、「山の上にあるため、利用しやすい場所に移転してほしい」、「市民病院跡地へ移転してはどうか」という意見を多数いただいております、長年の文庫山学園の課題である。
文庫山学園の運営を協議する「文庫山学園運営会議」においても、市で検討して欲しいという意見が出ており、文庫山学園は、高齢化社会において「高齢者などの交流拠点」としての役割を果たすべきと考えているため、新しい形で市民病院跡地への移転を検討願いたい。
- ◇高齢化率が高くなっているにもかかわらず、文庫山学園の利用者数が減っているのは辻褄が合わない。何故利用者が減っているのかという問題を置いたまま、文庫山学園を移転するというのは、更に利用者が減ってしまう心配があるのではないか。
- ◆文庫山学園の利用者減少は、団体利用する老人クラブの加入者数が減っているのが大きな原因。

◇文庫山学園の利用者の意見だけでなく、利用しない人、利用しなくなった人の意見も聞いて検討を進めるべき。

座長 文庫山学園の移転が決まったわけではなく、付帯意見において、検討すべきとしているものであり、様々な観点での検討・検証が必要。

◇提言の中に、具体的な施設や機能を示しめすべきとの意見があったが、具体的な施設や機能を盛り込むには議論の時間が少なく、時間が経過すると施設の用途に対する市民の要望は変化することから、提言は今の内容でよい。

◇大事なのは施設の使い方であり、如何に使いこなすかがポイントになる。その使い方を今この場で議論して出してしまうのではなく、今後、市民の皆さんが施設を使いながら考えていくことが望まれる。

◇多くの市民が施設を使う中で、多世代交流が生まれ、賑わいができ、その結果として周りに人々が集まり、商業や雇用が生まれる仕組みを作っていかなければならないが、それは施設を使う人々が考えていくことが重要。それを特定の人たちに委ねるのではなく、様々な市民の皆さんが参加し、意見を出し合って考えていく仕組み・組織を作っていくことが必要で、その意見を聞いてくれる市役所の窓口を開けておくことが必要と思う。

◇施設は完成したら終わりではなく、市民の皆さんが利用していく中で、意見を出し合いながら利用計画の改善を続けなければならない。そのなかで世代間の交流も生まれてくる。

(傍聴市民) 病院西側の道路(岩手通り)に歩道が整備されていないため、交通安全の観点から、歩道の整備をお願いしたい。

④提言書の加筆・修正について

(座長) 提言書の内容について、一部文章の訂正や意見の追加を行うが、基本的な流れや表現については、座長に一任させて頂きたい。

【異議なし】全会一致で可決

⑤スケジュールについて

事務局より、後日、あり方懇話会から市長へ提言書を報告していただく機会を設けることを説明。日程は、後日お知らせする。

⑥閉会